

美

人

重

氏

基

誌

銘

美

10

姓

董

示

州

廿五

宜

縣

三

七

婉

憊

卷之三

卷之三

接

上

順

八

卷之三

親

卷之三

► 翻亥拓本 A (原、大)

翻亥探本日

# 「落ち穂拾い記」② 『美人董氏墓誌銘』(上)

翻刻拓本B 翻刻拓本A 原刻拓本



原石拓本(書道博物館本)(図版①)



隋時代には、楷書の手本として優れた書の墓誌銘が数件ある。

『蘇孝慈墓誌銘』や『美人董氏墓誌銘』は、大変有名なものであり、影印され書の教科書をはじめとして各種の手本集に収録されている。前者は、今まで原石が伝えられ、多くの拓本が流布しているので、原石拓入手するのは、難しいものではない。しかし後者の『美人董氏墓誌銘』は、大変有名なものであるが、原石拓本は大変得難く、原石拓本の影印資料もそれほど多くない。有名な二玄社の『書跡名品叢刊』の『墓誌銘集・隋』に『龍山公墓誌銘』『蘇孝慈墓誌銘』『太僕卿元公墓誌銘』『太僕卿夫人姬氏墓誌銘』とともに巻頭に収録されているが、戦前の民国時代の上海芸苑真賞社のコロタイプ版を

もとにした翻印である。「美人」とは隋の文帝の第四子の蜀王秀の寵愛していた侍姫の官職であり、その侍姫の名が董氏であることから「美人」の二字を冠して、「美人董氏墓誌銘」と称される。董氏は開皇17年(597)に19才の若さで亡くなり、誌文は蜀王秀の自らの撰文である。この墓誌銘は、清朝後期に陝西で発見され、程なく上海の徐謂仁なる人の手に帰した。書法的に優れたこともあり、徐氏がたいそう秘蔵した。その当時、太平天国の乱に遭遇し、この墓誌銘が失われたとされる。そのためには、原本の伝来するものは、大変に少ない。名品叢刊の編輯や監修の先生方も日本で原刻拓本を探し得なかつたのであろうか。これまで入手した『美人董氏墓誌銘』の拓本は、二件とも整拓の翻刻拓本であった(右頁主図版)。原刻の鮮明な影印が紹介されたのは、戦後、平凡社から刊行された書道全集に、中村不折旧蔵の書道博物館本が掲載され、全文が付録として影印された(図版①)。これが『美人董氏墓誌銘』の日本での原刻精印本であろう。家蔵のA・Bの二種(一は、やや字画が太く、一は、やや細い)の翻刻整拓本と比較すれば、鑑別は難しいが、部分拡大の比較図版からは原刻と翻刻の相違を見ることができる。

名品叢刊の後に出来た二玄社の法書選シリーズには、『美人董氏墓誌銘』の三井聰水閣旧蔵本が掲載されているが、今回示した翻刻拓本Aと同石拓であった。

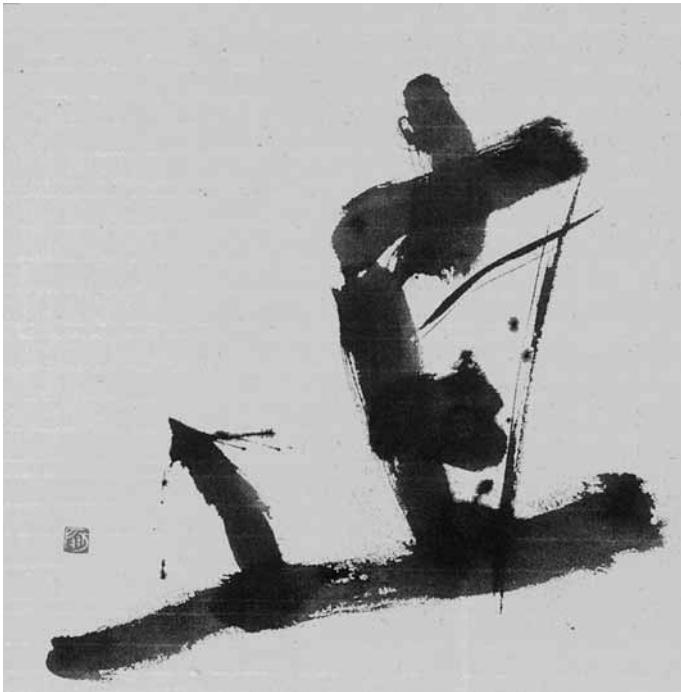
伊藤滋(書齋名・木鶏室)

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2021)

「竹扇会 NOW！」紙上展出品作品

長峯万扇書



「直」35×35cm



長 峰 万 扇

「氣概を持つて」

2020年4月に初の新型コロナウイルス「緊急事態宣言」が発令されました。私達は長い長いコロナ禍の中にいました。第1波から始まり…こんなに長く続くとは夢にも思いませんでした。コロナ禍の影響で各書展の順延が続き、竹扇会書展も2020年56回展を順延せざるを得なくなりました。悶々とした中、「竹扇会NOW！」紙上展が開催されました。ここで立ち止まつてはいけない、前に進むんだと出品者一同コロナ禍を吹き飛ばす勢いで取り組む姿勢に熱いものを感じました。小品での発表は至難でした。私の選んだ文字は「直」。直線の中での緩急・スピード感をもって甲骨文字の鋭い線を表現できたらと思い書きました。今、置かれている状況を見据えて真っ直ぐに貫く!!やり抜く!!書ききる!!と強く感情に走った作品になりました。私にとっては感概深い一点です。作品を書く上で大切なのは、やはり古典臨書の勉強だと思います。感情だけが先走っても常日頃の鍛錬が足らないと自身の力量の線しか出できません。私その一人です。勉強不足を痛感し一層の精進を重ねてまいりたいと思います。

師・小伏小扇先生との出会いは、職場の近くにあった書道教室を訪ねたときのことでした。以来40年の月日が流れ、長いご縁となりました。入口に出て来られた小扇先生は、まるでお花がパッと咲いたように華やかでした。今も鮮明に記憶に残っています。後に、会長である小伏竹村先生の書法研究講座に行かせてもらうようになり、書道史・古典を学びました。両先生とも情熱家でいつも熱いご指導をしていただき感謝しております。志と共に強くあらねば、この難局を乗り越えていけません。自分の心を支える書道にこれからも、向き合っていきたいと思います。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 第72回毎日書道展東京展閉幕 地方展 皮切りは中国展 特別展 示「香川峰雲 心で刻む」開催

めビデオ撮影を行った。解説会はもとより、予定されていた顕彰式・祝賀会等は全て中止となつたため、解説などはビデオ収録し会場で放映することとなつたためである。

企画は小竹石雲実行委員長の強い希望で中国展実行委員会が企画して実現した。香川峰雲先生の代表的な篆刻・刻字作品が印材の現物をはじめ展示され、大きな関心を呼ぶ企画展示となつた。

他の地方展では各種催しを断念するなど大きな影響を蒙つているが、全国地方展が無事開催されることを祈りたい。

第72回毎日書道展東京展が8月1日無事閉幕、今後順次地方展が開催される。皮切りは広島・岡山・鳥取・島根を擁する中国展が8月17日～22日、広島県立美術館で開催された。実行委員長は本院常務理事小竹石雲氏が担当され、折からの集中豪雨、コロナ禍の厳しい条件の中、無事開催へと漕ぎつけられた。8月16日の搬入陳列作業は、会場設営、作品搬入、作品配置、取り付けと、夜8時過ぎまでの作業は大変なご苦労であった。

今回中國展の企画展示として「香川峰雲 心で刻む」が行われ、峰雲先生の刻字・篆刻作品を中心に行われた。遺族の香川倫子先生の全面的なご協力、ご支援をいただき実現した。

8月16日陳列日午後、担当理事として陳列作業に立ち会い、翌日に予定されていた香川先生遺作展示の解説のた



小竹石雲実行委員長と会場にて

企画展示は来年の第75回記念書道芸術院展の特別展示として開催すべく検討を始めている。ご期待いただきたい。

## 書道芸術院秋季展 作品選考・15人展ほか作品確認など実施

本年の書道芸術院秋季展は予定通り開催すべく諸準備が進行している。

アートサロン毎日での「推薦作家展」15人展作品は7月26日に、8月26日に財団役員含む選抜作家121点の作品確認が行われた。

・会場 セントラルミュージアム銀座  
アートサロン毎日

今回もコロナ禍の影響、緊急事態発令状況などを考慮し、表彰式・作品研究会は参加者を縮小して3階会議室にて開催し、祝賀懇親会は中止とする。誠に残念であるが、やむを得ない状況でありご理解いただきたい。15人展（アートサロン毎日）作品研究会は出品者と担当理事による作品批評会を会期最終日10月10日に会場にて開催する予定。

審査会員候補公募作品の選考は選考委員7名により同日開催され「秋季菊花賞」10名、「秋季俊英賞」40名が決定した。応募は各部計330点、192名。

入賞者は左記の通り。  
・秋季菊花賞（10名）

漢字 市川 将義 金子 美千

かな 高橋 佳子 半澤 香艸

田中 一葉 井上 雲開

かわ 遠藤 光葉 井上 雲開

現詩 石崎 甘雨 井上 雲開

漢字 阿部 雅悠 安藤 叙孝

秋季俊英賞（40名） 伊藤 和雪 井ノ口 春峰

上岡まゆみ 吉瀬 彩雨

木下 玲窓 小谷 翠香

近藤 淑子 佐茂 明祥

清水 蘭舟 寺前 華扇

木下 翠香 平倉 明楓

藤井 幸水 由賀 美風

笠原 紫玉 菱沼 範子

野村 幽春 前田 花峰

吉田 知 芳村 溪花

長谷川 翠 菱沼 範子

藤井 花香 前田 花峰

山内 桂峰 吉田 溪花

吉田 紫風 芳村 麗月

大竹 紅華 栗原 りか

木暮 美紀 坂田 翠江

佐々木紅楓 佐藤 成美

下沢 博美 藤崎 翠江

津田 佑子 松月 栗原 りか

伏津 玲子

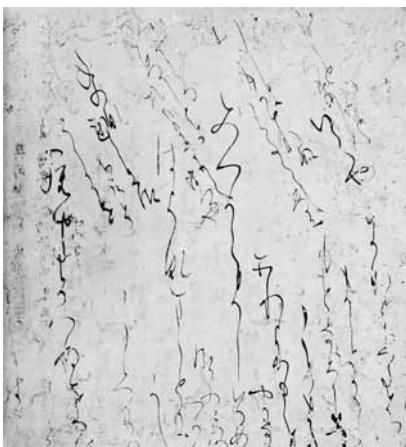
入賞者は左記の通り。

## かな基礎基本講座(16)

下谷洋子

### かなの書式(一) 散らし書き

かなの書式には、行書きと散らし書きがあります。2回ほど、例も交え行書きにふれました。今回よりも一つの書式、散らし書きに入ります。“散らし書き”とは、行頭の高さを変えたり、行の長さや行との間隔に変化をつけて配置する方法のこと。古筆の古い例から見てみます。

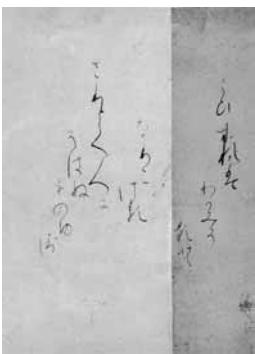


(一部分)

「三宝感應要録  
紙背かな消息」

伝藤原行成 11世紀

まず大きく書いて、最後に上部の空いた空間にも書くスタイル(下部の空間に書くこともある)



「業平集切」

伝藤原行成 11世紀半

行に太細を施し、墨の濃淡の配色も見事な散らし

古今集切  
伝藤原行成 11世紀半  
行の長短に伴い、行の広狭も工夫されていく

## 現代詩文書基礎基本講座(16)

小竹石雲

### 【臨書から現代詩文書への展開】

#### ①建中告身帖風のひらがな表現方法

#### ②建中告身帖風の現代詩文書

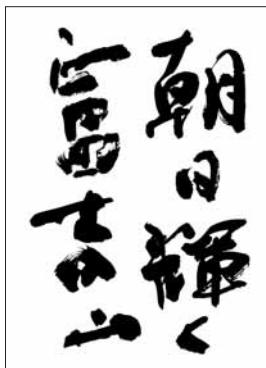
- 筆の弾みに力強さを加えてみた。  
・筆の弾みに力強さを加えてみた。  
・逞しく全力投球で紙面に立ち向かう。

- 瞬発力が大切。  
・力が前に出すぎ、瑞々しい豊かさが少々不足。上下運動よりも水平運動が勝ったので速くなつたように思う。速すぎると荒れ、格調が下がる。また連渉では精神性感がなくなる。数字で表す速度ではない。呼吸かな。頭では分かるような気がするが、いざ書いてみると上手くいかない。運筆って難しい。

- ゆえ顔真卿の書は「碑一面貌」と言われる。一枚きりで書く心の準備をもって、情景、イメージを膨らませて筆を執った。この作例も直筆を旨としながらも側筆も加えてみた。少し筆を吊り上げる線が不足したため、明るく懐の広さに欠けたように思う。



①



②



# 特集 第72回毎日書道展

国立新美術館 東京都美術館

7月18日(日)～7月24日(土)

## 第72回毎日書道展総評

辻元大雲

昨年3月ごろより本格的な影響が出始めた新型コロナウイルス蔓延のため、2月初旬の第72回毎日書道展運営委員会で主要な運営方針、組織体制を決定した。開催に向けエンジンがかかり始めた4月事務局合同会議直前、2020年の開催を見送り2021年へ順延することとした経緯は、既にご承知の通りである。本年改めて第72回展を開催することに踏み切った背景には、様々な不安や困難な状況を予想、覚悟しながらの決断であった。

昨年決定した組織、運営内容などはほぼ踏襲することとし、状況により変更、交代人事も行った。今回特筆されるのが、コロナ禍による出品減（約10%強）に対し、入選率の緩和（約5%増）、入賞数を71回展と同数とし、入賞比率もアップすることとなつたことである。現下の異常事態の中、毎日書道展へ出品努力され、書に対する情熱、気力の発揮に対しても十分とは言えな

いが少しは報いることとなつたと思う。

4月12日

の事務局合同会議は、出席者を縮小し、各係主任以上の参加で行われた。5月21～23日の鑑別審査は、蜜を避けるため国立新美術館3階講堂も審査室として使用して行われ、6月の審査は「かな部」を1週間前倒し6月18～20日に、その他を6月25～27日の日程で行われた。近代詩文書部では大幅な人員縮小（審査部・総務部）も行い、得点集計もコンピューター連動でスピーディにかつ正確、静寂な環境で行われたのが特筆され、次回以降他部門への活用も検討される模様。

今回実行委員長・遠藤彌（篆刻）、審査部長・片岡重和（漢字）、総務部長・渡部會山（漢字）、陳列部長・宮本博志（近詩）各氏は変更なく、運営委員として本院から小浜大明（大字）、後藤大峰（刻字）、津田海仙（前衛）、各展実行委員長として小竹石雲（中國展）、太田蓮紅（東北仙台展）、大石仙岳（北陸展）の各氏が重責を担つた。当審査員、会員賞選考委員ほかは既報の通り。

全出品者を対象とする文部科学大臣賞には漢字部加藤裕氏（創立）が受賞。

会員賞には本院より昨年に続き2名が受賞、漢字部・大内熒軒、近代詩文書部・渡辺柱雲、ともに千葉白扇書道会からの受賞で、前回展の宮城野書人会からの2名と同様の快挙となつた。その他毎日賞以下の各賞受賞者は別記の通り。

・中国展 8月17日～22日  
廣島県立美術館  
(特別展示 香川峰雲遺作展)

・北陸展 8月22日～26日  
富山県民会館

・東海展 8月24日～29日  
愛知県美術館ギャラリー

・四国展 8月25日～29日  
愛媛県美術館

・関西展 9月10日～15日  
せんたいメディアトーク

・東北展 9月22日～26日  
京都市京セラ美術館ほか

・北海道展 9月22日～26日  
札幌市民ギャラリーほか

・九州展 10月19日～24日  
大分県立美術館

・東山展 10月20日～24日  
山形美術館

各地方展では作品展示とともに顕彰式などの各種催しが企画されているが、コロナ禍の影響で開催内容が大幅に変更されることも予想される。ご注意を。

東京展以降全国9会場にて地方展が開催される。ご支援ご協力をお願ひし

会員賞



漢字部 大内熒軒

大内熒軒  
(漢字部)

第72回毎日展はコロナ禍の中、さまざまな制約での展覧会でしたが、新たな魅せ方もあり、開催に感謝いたしました。これからも研鑽を積み、自分なりの歩みで取り組んで参ります。皆様のご指導賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

いろいろな書きぶりの簡牘に興味を持ち、いつも試行錯誤。作品は「論語」にある君子九思のひとつで締め切り近くに書きました。いくつものイメージを考え、構成に変化を求めたり、寄り道をしましたが、ふと・・・力まず自然な呼吸で仕上がったのかなと。創作の面白さは大事にしたいと思っていました。

この度の会員賞は、身に余る光栄と皆様に感謝申し上げます。ずっとおもに重みを感じております。

会員賞



近代詩文書部 渡辺柱雲



渡辺柱雲  
(近代詩文書部)

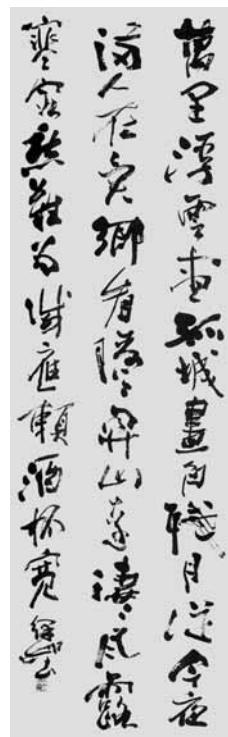
この度は思いがけない栄光に、驚きと感謝の思いでいっぱいです。小学生の頃より指導して下さった扇舟先生・萬城先生・白扇会・書道芸術院の先生方に感謝してもし尽くせない気持ちです。今回はコロナ禍で書に向き合う時間が多く持てた事や、佐藤栄扇先生の大作への取組みを目の当たりにし、大いに刺激を受けました。作品は自作句で、母と登った山では最後となった奥穂高の光景を書にしました。山の雄大さと重厚感は、長年学んできた鄭道昭の摩崖碑の雄大さと顔真卿の重厚さにマッチし、古典の勉強を生かした作品になったと思います。また今回は、筆づくりの話を聞かせて下さった江戸筆の名店・田辺文魁堂の筆を、偶然にも分けて頂きました。その筆で書いた作品で賞を頂けたことは、「昨年亡くなつた田辺さんへのささやかな手向けにも



漢字部 II類  
佐々木 青霞



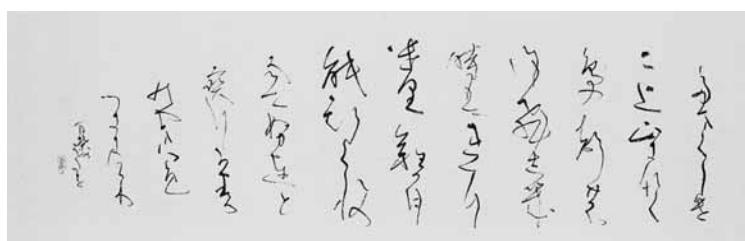
漢字部 I類  
佐伯哲哉



漢字部 I類  
後藤繹如



かな部 I類  
松本泰子



かな部 II類  
斎藤杏邑

毎 日 賞



大字書部 山岡扶佐



近代詩文書部 大友四峰



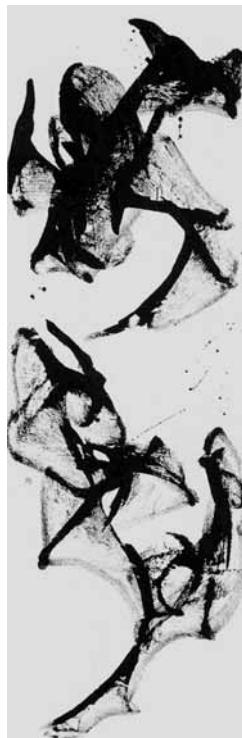
近代詩文書部 柳川蝶月



近代詩文書部 若見苑柚



前衛書部 梅山久子



前衛書部 川田弘子



前衛書部 大友紅薙

## 第72回展書道芸術院出品数（公募・会友）

書道芸術院	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
本年度	351		267	394	186	0	52	393	1,643	
71回展	417		310	488	225	0	57	429	1,926	
増減	△66		△43	△94	△39		△5	△36	△283	

## 第72回展書道芸術院受賞者数

賞名	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
会員賞		1			1					2
毎日賞		3		2	3	1			3	12
秀作賞		5		5	7	4		1	6	28
佳作賞		12		9	14	7		2	13	57
U23毎日賞										
U23新銳賞				1	1					2
U23奨励賞		1							2	3
合計		22		17	26	12		3	24	104

## 秀作賞受賞者

## 佳作賞受賞者

## ・刻字部

加藤觴流 鷹齋観道

### ・漢字部(Ⅱ類)

小林舟驥 高安翔琴 種谷悠輝  
谷田鐵箋 高橋華真

### ・かな部(Ⅰ類)

高橋佳子 星野栄子  
秋山久枝 德永美恵子 篠田祐子

### ・漢字部(Ⅰ類)

前浜裕香 中島恵華 河野 文  
上田琴秀 佐藤米珠  
日比康貴

### ・かな部(Ⅱ類)

小関瑞華 金子美千 坂本芳博  
新行内芳蘭 土屋聖峰 相内珠莉

### ・漢字部(Ⅱ類)

木原尚子 荒谷明美 石黒和喜  
大村直子 青木かよ 藤崎彩花  
田中澄花 濡美照瑛 庄司咏艸  
高橋清琳 佐々木藍水 長澤紅苑  
亀井 健

### ・近代詩文書部

酒井優子 菊池慶輝 俊田希子  
遠藤光葉 井上雲開 神谷雲卿  
茂木絢水 塩出喜燕

### ・漢字部(Ⅰ類)

茂木絢水 高山裕子 大崎友里絵  
境野和子 早部 朗 清水幸子

### ・かな部(Ⅰ類)

熊谷 翔 佐藤龍太

### ・漢字部(Ⅱ類)

東宮香織 早部 朗 清水幸子

### ・近代詩文書部

清水由紀子 木村裕子

### ・刻字部

牧川逢扇 吉永杏花 塩出喜燕  
西村達也

### ・近代詩文書部

齊藤恭子 小川香煙

## U 23 新銳賞

## U 23 授勵賞

### ・漢字部

葛西楊舟 若林泰石 千葉光龍  
坂本龍水 佐藤陽春 齋田舞夢  
大森建石 松山清風 田澤館楓

### ・漢字部(Ⅱ類)

富樫千尋

### ・前衛書部

須藤彰二 伏津玲子 佐藤陽子  
木暮千晶 阿部雅悠 中塙朱華

### ・前衛書部

田村詩乃 浅野珠生

### ・漢字部

衣田翠草 木下玲奈 松山清風  
堀田白扇 藤原聖美 伊藤明秋  
上岡まゆみ



表彰式会場風景



五輪応援企画展示(新美)



「紫の雲に」240×240cm 九條純代



「長い夜も必ず明ける」240×270cm  
大隅晃弘



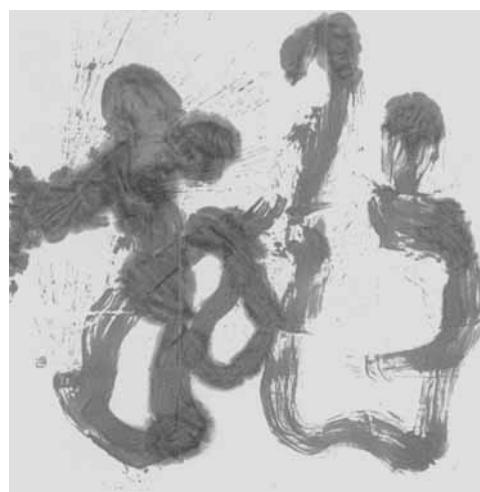
「栄光の門へのオマージュ」242×273cm  
工藤永翠

第72回  
**毎日書道展**

東京2020大会応援企画  
「現代日本の書」  
選抜展示

2021年  
7月8日本木～8月1日日

会場：国立新美術館  
主催：毎日新聞社、毎日書道会

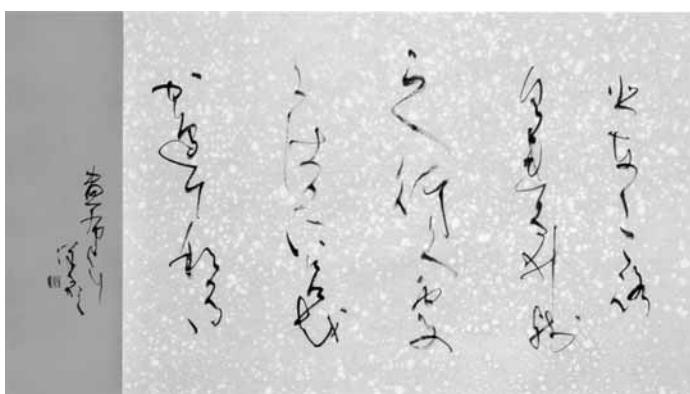


「挑(いどむ)」270×260cm 前田龍雲

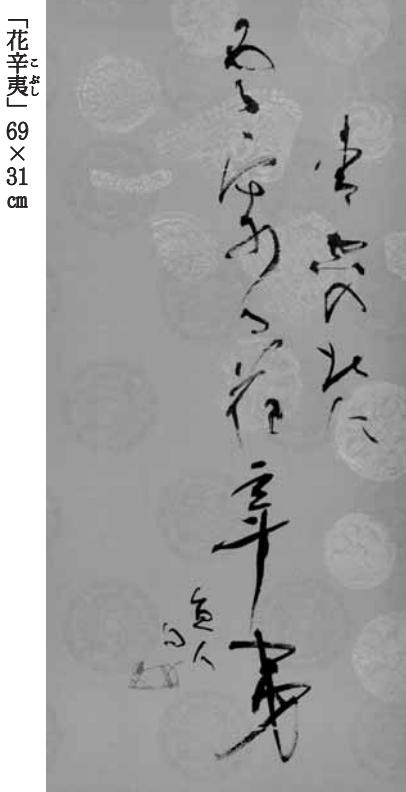
# 下谷洋子書展

—上州の韻き こよなく・かな—

- 会期 令和3年7月15日(木)～25日(日)
- 会場 和光 本館6階和光ホール



「行く雲」57×102.5cm



「花辛夷」  
69×31  
cm



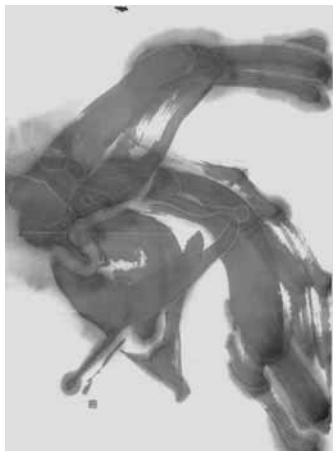
「浅間山」36×50cm



「明石方」79×34cm (×7)

# 令和3年度 新審査会員作品

安藤 楊風（前）・工藤 山房（前）・近藤 桜紅（前）・熊谷 翔（か）



近藤  
桜紅  
(宮城)

「可」

この度は審査会員にご推挙いただき誠にありがとうございます。太田蓮紅先生はじめ諸先生方に御指導をいただいたおかげと心より感謝申し上げます。この作品は、自分内にある可能性を表現しました。まだまだ思うような作品が書けずにいますが、古典を学び研鑽を重ねて参りたいと思います。

(桜紅)



安藤  
楊風  
(千葉)

「勉」

審査会員にご推挙いただき厚く御礼申し上げます。中学校から板垣洞仙先生のもとで、自然と前衛書に導かれ、余白を考えながら書に親しんできました。今ではその世界の奥深さに戸惑いもありますが、心を新たに精進して参ります。また、本院で多くの先生方に学べることを楽しみにしております。

(楊風)



熊谷  
翔  
(埼玉)

「とぶものは」

この度は審査会員にご推挙いただきありがとうございます。これもひとえに、いつも熱心にご指導くださる下谷洋子先生、書道芸術院の諸先生方、支えてくださる書友のおかげと感謝申し上げます。今後も多くの古典、古筆と向き合いながら、自分なりの書を求め精進して参ります。

(翔)



工藤  
山房  
(青森)

「巣」

亡き師田名部房香の言葉「感動を表現する」に少しでも近づけるよう、文字性・非文字性の中にも線質の深さやゆったりした呼吸が出せるよう線の鍛錬をし、美しいと感じる心を持って精進していただきたいと思います。この度は審査会員に昇格させていただけ誠にありがとうございます。

(山房)

温泉銘

③

(唐・太宗皇帝)



(掲載図版・83%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

〈解説〉太宗(李世民、598~649)は、唐朝第一代の皇帝である(初代皇帝高祖の第二子)。隋末に父の王朝創設を実質的に主導し、唐朝300年の基礎を築き、支配体制をつくりあげ、中国歴代帝王中第一の名君と言われた。同時に、博学で文芸に通じ、王羲之の書をこよなく愛し、自らもその書を学ん

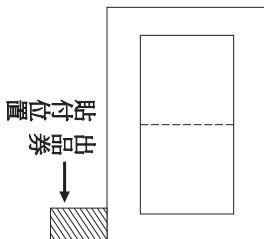
だ。そして、後に「初唐の三大家」と呼ばれた虞世南、歐陽詢、褚遂良らにその書法の正統を伝えさせた。また王羲之の書の収集、修理、保護にも力を注ぎ、精巧な複製を作り臣下に分け与えた。王羲之の「書聖」としての権威は太宗によつて決定づけられたと言える。(編集部)

醫民。鑠凍霜夕。飛炎雪晨。林寒尚翠。谷暖先春。年序屢易。暄涼幾積。其妙難窮。其神靡覩。落花

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) 当該古典の上記掲載  
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙1/2(約68×68cm)以内も可(縦横自由)) 部分以外も可。

韓國(의상)斗廟也書口\*



〈半紙ヨコ形式に限る〉

(個人藏)

解説 著者は西行によく伝わるこの「一条撰政集」は、伝西行筆「中務集」の切抜きで、や升形の冊子本の「曾丹舟切」の書風によく似ている。「西行歌集」の書風とも類似しているが、西行の真跡と確証できない。書写年代は、西行の時代より前の12世紀前半であると考えられる。

この一案撰政集は、会津の松平家に伝来していたもので、時親(ときちか)が入美不明确(ひづけぬ)から、古筆に詳しい田中親(たなかちか)を介して三井財閥の手経営者・益田純翁(ますだじゅんおう)が入手した。戦後個人蔵となつて今日(編集部)に至っている。

※掲載図版・84%に縮小

上記は紙ナシス切手の販売部会より、金額は88円(税込)で、2×6寸の全紙も司会員登録料金内に含まれます。半額以上で販売されています。

(ପ୍ରେସ ପା)

一 政 摂 条 集

210



種谷萬城

遊び三昧

(「無門関」)



語句の意味は、「どんな状況にあっても、自分がなすべき事に没頭し、無心で取り組み、その状況を遊びのよう楽しむ事」です。「楽しい事をする」のではなく、「する事を楽しむ事」を説いた語です。今月は行書です。一点一画、線の表情を楽しみましょう。楷書と草書でも書きました。どうぞ書作を楽しんで下さい。

〈参考作品〉



草書



楷書

漢字規定秀級以下【十月十五日締めきり】用紙半紙普通判

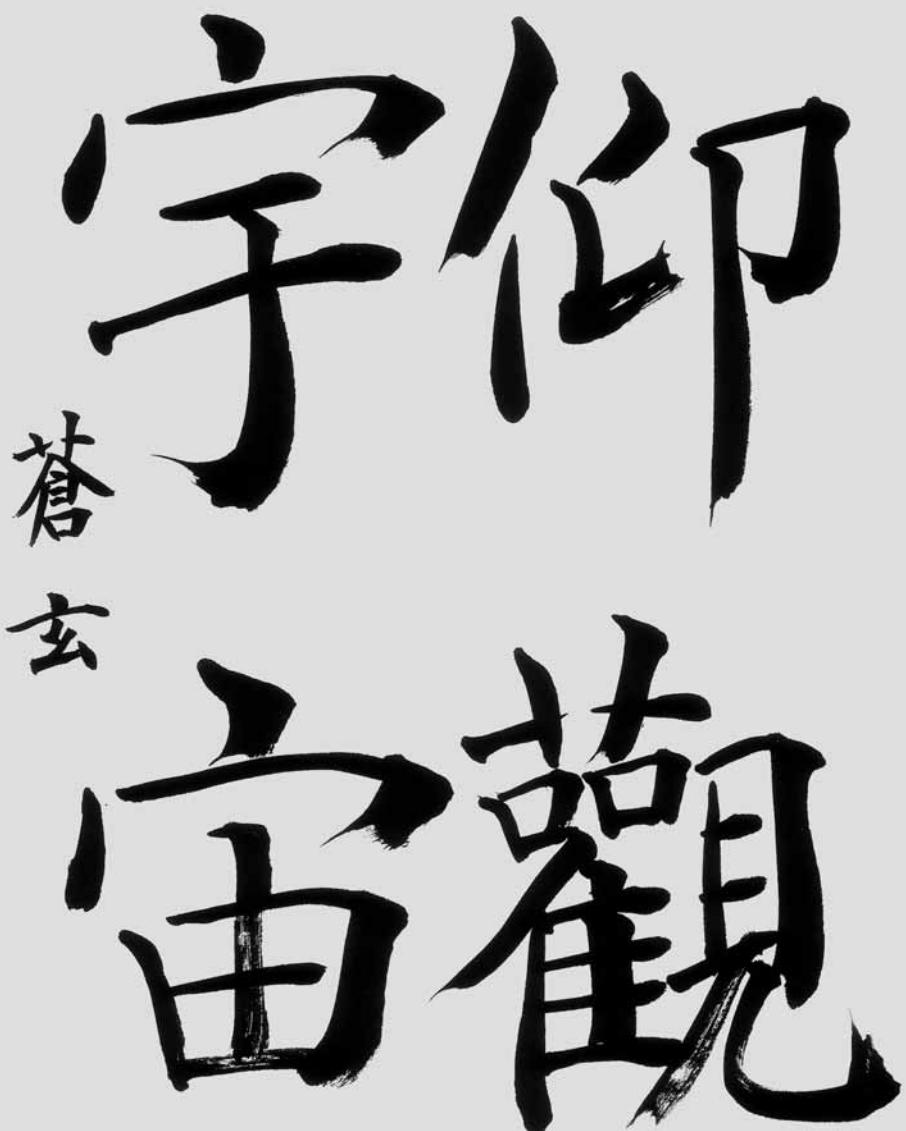
千葉蒼玄選書

## 習い方解説 (六)

千葉 蒼玄

仰觀宇宙  
(あおぎ見る宇宙)

\*「宇」は「天地四方上下」、「宙」は「往古來今」…時空(時間と空間)の全体。



書体＝楷書



〈雁塔聖教序〉

仰觀宇宙之大 倏察品類之盛所  
宇宙の大きさを仰ぎ見、地上に  
伏して動物や植物が盛んに生い茂  
るのを感じる。楷書の中でも褚遂  
良の雁塔聖教序は“千里の陣雲が  
たなびく如し”と例えられるよう  
に、のびのびと広がっていく感じ  
がする。細い線ではあるが、弱く  
ならず強く雄大に心がけることが  
大切である。

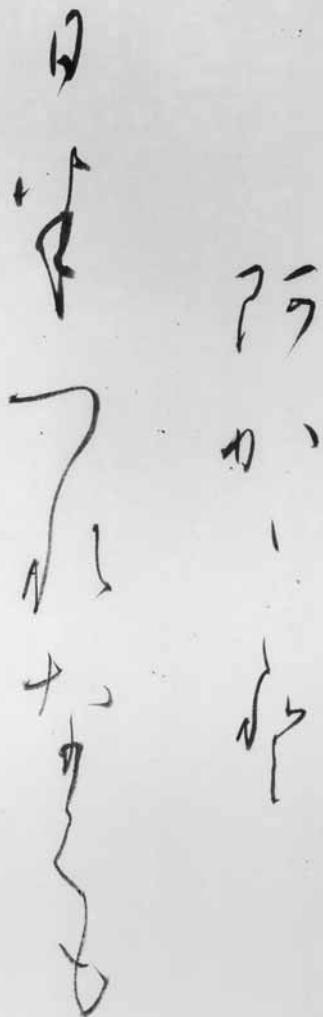
仰觀宇宙 よみ(仰ぎ観る宇宙)

習い方解説 (三)

平川峰子

あかあかと日はつれなくも秋の風(松尾芭蕉)

(松尾芭蕉)



もう秋だというのに太陽の光はそんなこと関係ないふうにあかあかと照らしている。しかし風はもう秋の涼しさを帶びている。  
あかあかとは「明明と」で大明るくという意。つれなくもは、さりげなくとか、そ知らぬさまの意。

芭蕉と曾良が1689年、東北・北陸の旅の途中、金沢から小松へ向かう道すがら詠んだと「奥の細道」に収録されています。

俳句は作者の意志を尊重して文字の交換をしない方が良いと思いますが、作品にするにあたり変体がなに置き換えて連綿も入れると美しい作品になります。

今回は基本構成の3行にしてみましたが、他の構成も楽しんでください。墨縁ぎは秋でしました。

よみ方 あ(阿)かあか(ゝゝ)と(登)日は(半)つれなく(久)も秋の風(可勢)

創作

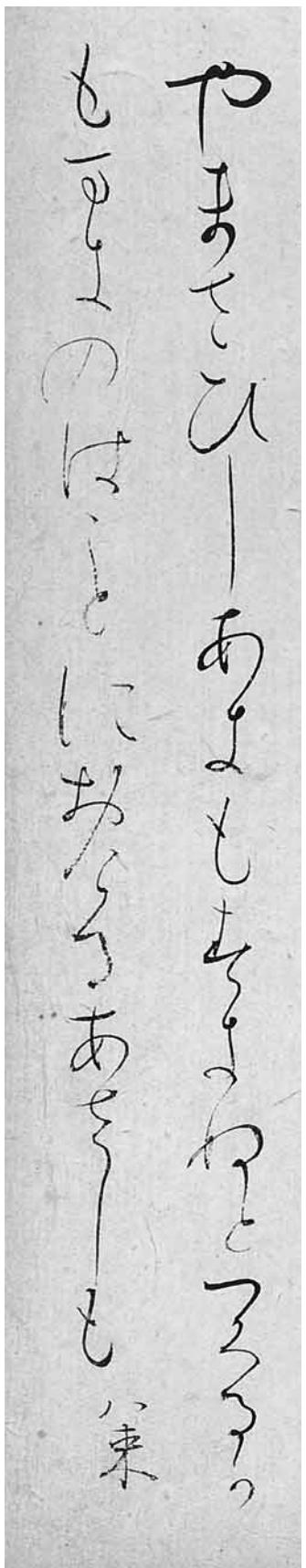
\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

33.0×24.5 cm

かな規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 やまなびしあき(文)もす(春)ぎ(支)ぬとつぐ(久)るか(可)

あま(刀)き(支)のは(い)とおけ(介)るあさしも八束

### 習い方解説 (三)

小島 孝予

色付くや豆腐に落ちて薄紅葉  
(松尾芭蕉)

かな条幅規定【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

小島 孝予選書



1行目中央の「豆腐」は重くな  
らないよう、変化のある線質で字  
を引き締めて書きました。また、  
墨継ぎをした「う寸紅葉」と隣り  
合う渴筆「於干て」との対比と余  
白の動きによって、作品全体の立  
体感と大きな流れが生まれます。  
17文字で如何に表現するか——難  
しさもありますが、ぜひ色々な表  
現にチャレンジしてみましょう。

創作

\* タテ形式に限る

よみ方 色付(徒)く(久)や豆腐に(尔)落(於)ち(干)て薄(う寸)紅葉

漢字条幅規定 初段以上  
【十月十五日締め切り】

用紙 小画仙紙半切

迂元大雲選書

習い方解説

辯元大雲



返照入閻巷 夏來誰共語 古道少人行 秋風動禾黍  
(返照閻巷に入る 夏い来つて誰と共に語らん 古道人行少に 秋風禾黍を動かす)

書体 II 自由

由日

\*ヨコ形式に限る

最終回となりました。恒例の横形式での表現です。やはり唐詩選から、秋の風情を詠んだ五言絶句です。

錦地華蘭  
重慶白  
珠玉寶盒精盤

漢字条幅規定 秀級以下  
【十月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

習い方解説 (六)

半田藤扇

最後の月となりました。14文字、行草書の創作です。文字の造形・潤渴・終始一貫性を必要といたし

ます

表情豊かに表現すると言ふこと

私の作品で説明を致しよ

書いてみましょう。

※羊毛筆を使用

錦帳暁開雲母殿  
（きんちょうあかつきのひらうんもどの殿）  
白珠秋寫水精盤  
（はくじゅあきうすいせうばん）  
白珠秋寫す水精の盤  
（はくじゅあきうすいせうのばん）

書体 II

川村美泉

今回が最終回となりました。漢字とひらがなの調和、運筆の緩急やリズムを中心で学んできましたが、①ペンに慣れること②継続すること（継続は力なり）③たくさん書くことが上達への道だと思います。

秋の情景の中で、故郷の父母、兄弟を思う郷愁の歌。ご自分の好きな1本のペンを使って、しつどりと書きあげていきました。

夕空はれて秋風ふき  
つきかけ落ちて鉢虫鳴く  
思えば遠し故郷の空  
ああわが父母いかにおはす  
唱歌「故郷の空」美泉書

夕空はれて秋風ふき  
つきかけ落ちて鉢虫鳴く  
思えば遠し故郷の空  
ああわが父母いかにおはす

唱歌「故郷の空」

書体＝自由

◇用紙　ハガキ大（14.8×10cm）の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用（ボールペン・フェルトペン可）

「注意!! 用紙の大きさにばらつきが見られます。  
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。」

秋冷 白露 ご隆盛 灯火親しむ

秋冷 白露 ご隆盛 灯火親しむ

大隅晃弘

朝晩は秋の氣配が濃くなり紅葉も色づき

朝晩は秋の氣配が濃くなり紅葉も色づき

(楷書) 秋冷 白露 ご隆盛 灯火親しむ  
(楷書) 朝晩は秋の氣配が濃くなり、紅葉も色づき

(行書) 秋冷 白露 ご隆盛 灯火親しむ  
(行書) 朝晩は秋の氣配が濃くなり、紅葉も色づき

基本用語 「白露」二十四節季の一つで、9月8日頃  
の時候の言葉。

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)  
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可  
◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホープ作品  
各部総評 No. 723

漢字部 師範 後藤 白琴  
大らかなのびやかな線質が、紙面に広がりを与えている。柔毫筆の特性を生かした練度の作。

◎漢字部總評 上級書体自由部門はやや平板な作多し。多様な古典の応用創作を試みてほしい。(大雲評)楷書も同様に多彩さを。(洋子評)



かな条幅部 師範 堀江 幸泉  
参考手本をよく解釈し、丁寧にゆつたりと筆を運び好感度大。この上は、少々大胆さも加味したい。

◎かな条幅部總評 比較的誤字が少なくよくまとめていたが、じみの強い紙は大事な流れが出にくいで初心者には不可。(洋子評)

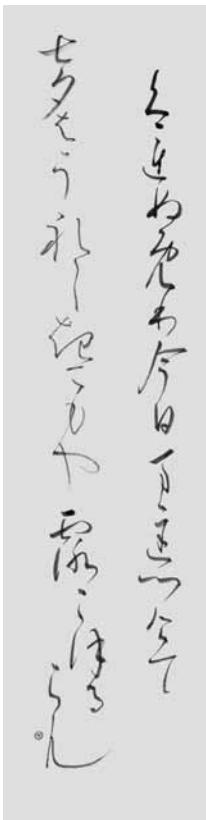


漢字条幅部 師範 安藤 叙孝  
大胆な筆法が生む線は、表情が豊かで切れ味が良い。潤渴、大小細太の変化も巧妙で魅力的な作。



◎現代詩文書部 特選 鶴山 美梢  
強靭な渴筆線が紙面を捉え見事に輝く。文字小大、行間の間合いが流麗。

◎現代詩文書部總評 多種・多様な構成、見事なまでの空間処理に感服するばかりでした。(無極評)

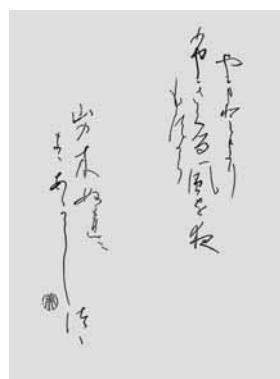


◎前衛書部 特選 鳴海 桂泉  
運腕大きく、表情豊か、リズミカルな運筆力強く、堂々の力作。



名も知らぬ遠き島より  
流れ寄る椰子の実一つ  
故郷の岸を離れて  
汝はそも波に幾日

唱歌「椰子の実」喜蘭書



かな部 師範 鶴山 美梢  
大小の文字をうまく取り合わせ、すっきりと軽快な書きぶり。柔らかな墨色が余白と相まって美しい。

◎かな部總評 大方は丁寧な作で紙面に合わない作もありました。

十分な紙面の活用を。(東舟評)

◎ペン字部總評 上位は構成もよく力感のあふれた作が多いが、下位作品はもう少し課題を研究され充実した作を望みます。(仙草評)

◎ペン字部總評 上位は構成もよく力感のあふれた作が多いが、下位作品はもう少し課題を研究され充実した作を望みます。(仙草評)

# 実用書優秀作品

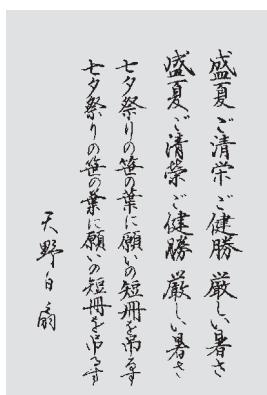
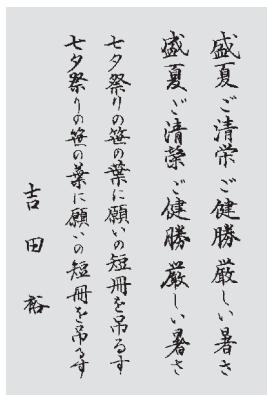
## 選評 大平邑峰

### ◎実用書部総評

一点一画心をこめて丁寧に書かれた作品が多く、審査に困窮した。実用と  
いう事で基本的な文字造型に留意したい作も見られた。  
(邑峰評)

確かな文字造型で間合も良く、リ  
ズミカルに書き進めている。  
  
特選 吉田裕

構えが大きく伸びやかな書きぶり。  
氣脈も通った堂々の作。



螢雪	四枝もく	秀峰	華八た洞千佑うる	水誠和	白楓会
ここ	佳	佳	仙街か書葉朋る	竹扇	楓会
小加奥池	岩井上	石田作	山保浜瀆竹水篠原	紅瑠	白扇
翠穂	理	英詩	山谷保野田浪津伊	秀	竹扇
穂子	陽	二歩	嘉芳雪舟風梢美	及川廣戸	白扇
大梨	香苑	秀川中	永竹叙惠楊美	新井天野	白扇
梢	苑	秀峰心	竹流梢甘雨	井澤	白扇
乃	豪	彩敏香	美永雪舟風梢嘉	及川天野	白扇
(選外)	47名氏名略	香苑	英詩	天野	白扇
惠泉昌	竹帝黎華椿	A大	幸高白も	坂久	白扇
苑	明仙翠江	大	瑤扇崎珠く	佐藤本	白扇
(選外)	美塚	A	草璋地	佐馬	白扇
渡吉	横横山柳安松	大	佐坂久	利守	白扇
井邊	安松	比原野二	坂久	対馬	白扇
翠蘭正百	奈砂和幸琴春	西西苗中	佐藤本	佐坂	白扇
信代綾	麗和幸琴春	西山川代里	久保	久保	白扇
舟江華	麗和幸琴春	島村通	由佳	正子	白扇
津	和幸琴春	通山川代里	恵秋	正子	白扇
子江	和幸琴春	島村通	星風理	芳	白扇
泉清汀	和幸琴春	通山川代里	謙	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	紫	博	白扇
子	和幸琴春	通山川代里	正	理	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	芳	白扇
子江	和幸琴春	通山川代里	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	通山川代里	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	通山川代里	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	通山川代里	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子江	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
子	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子江	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
城子龍象	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
子	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
江華津	和幸琴春	島村通	理	博	白扇
子江	和幸琴春	島村通	秋	正	白扇
泉清汀	和幸琴春	島村通	舞	天	白扇
城子龍象	和幸琴春</				

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 三浦鄭街 勝山初美

臨書 (宗苑)  
白井真理  
「温泉銘」



白井真理臨

135×35cm

◆筆先を利かせた美しい連綿です。自分のリズムが一貫して  
いて習熟した運筆が「一条摂政集」を表現しています。(初美評)

(鄭街評)

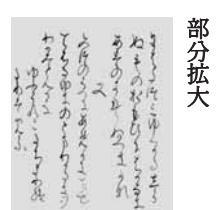
臨書 (卯月)  
木村関泉  
「一条摂政集」



木村関泉臨

135×35cm

◆大きな構えで空間をと  
らえ、スケール大きなダ  
イナミックな作品になっ  
た。さらにボリューム感  
を。



部分拡大

前衛書 (愛香社)  
大和愛香  
「波紋」



大和愛香書

◆全体を貫くシャープな  
線質が美しく人の心を引  
きつける。これからも線  
の魅力、白の生かし方の  
研鑽を。

(仙草評)

宍戸珠葉書



135×35cm

◆リズミカルな運筆  
で、楽しく踊るかの  
ような四連作。太細  
の変化が軽妙な雰囲  
気を醸し出す。

(大雲評)

現代詩文書  
宍戸珠葉 「あじさい」

## 小品の部

創作の部 (30点)  
漢字 15点  
かな 11点  
現代詩 17点  
前衛書 10点  
篆刻 1点

漢字 132点  
かな 2点  
前衛書 (34点)  
篆刻 17点  
漢字 1点  
現代詩 1点  
前衛書 1点  
篆刻 1点

総出品点数  
64点

〔特選候補者〕

(創作の部)

花埜高橋奎媛  
四枝大友四峰  
植松梅田紅雨  
もく森田藤谷

〔漢字〕

四枝及川豊流

〔現代詩〕

竹美横山蘭舟

〔篆刻〕

澄春新行内芳蘭

〔前衛〕

紅瑠松本秀舉

〔篆字〕

四谷鈴木白鸞

〔臨書の部〕

香苑小川香建

〔漢字〕

八街三浦英樹

〔篆刻〕

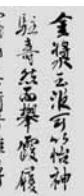
大阪高安翔琴

〔篆刻〕

原澤雄一

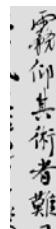
大作の部

部分拡大



47×180cm

金獮玉浪可以怡



江本興舟臨

◆ 23行、168文字。横  
形式の臨書作。最後  
まで集中力を欠かさ  
ずに、筆の抑揚を駆  
使した力作である。

(鄭街評)



石崎甘雨書

176×53cm

◆やや強いリズムでの四連作は、気迫が紙面に溢れる氣力の作となつた。筆者の呼吸が響きた。渡る作。（大雲評）

現代詩文書

(誠和) 石崎甘雨「朔太郎詩」

大友紅蓉書



◆鍊れた渴筆を駆使した明るい作、紙面を圧倒し、空間形成も巧みで、書に対する意識が伝わる秀作。

◆ゆつたりと弾力のある線で二連の構成。字間、行間のバランスも響き合い作品に深みを醸し出している。

特選候補者

総出品点数  
65点

かなー1占

臨書の部(24占)

現代—6占

漢字—4占

三〇三

千葉澄春浪川竹浪叙舟  
秀恵英峰吉瀬秋花  
洞書茂木絢彩雨  
瑤阿部雅條絶水  
金井みどり  
「かな」  
安藤楊風

33

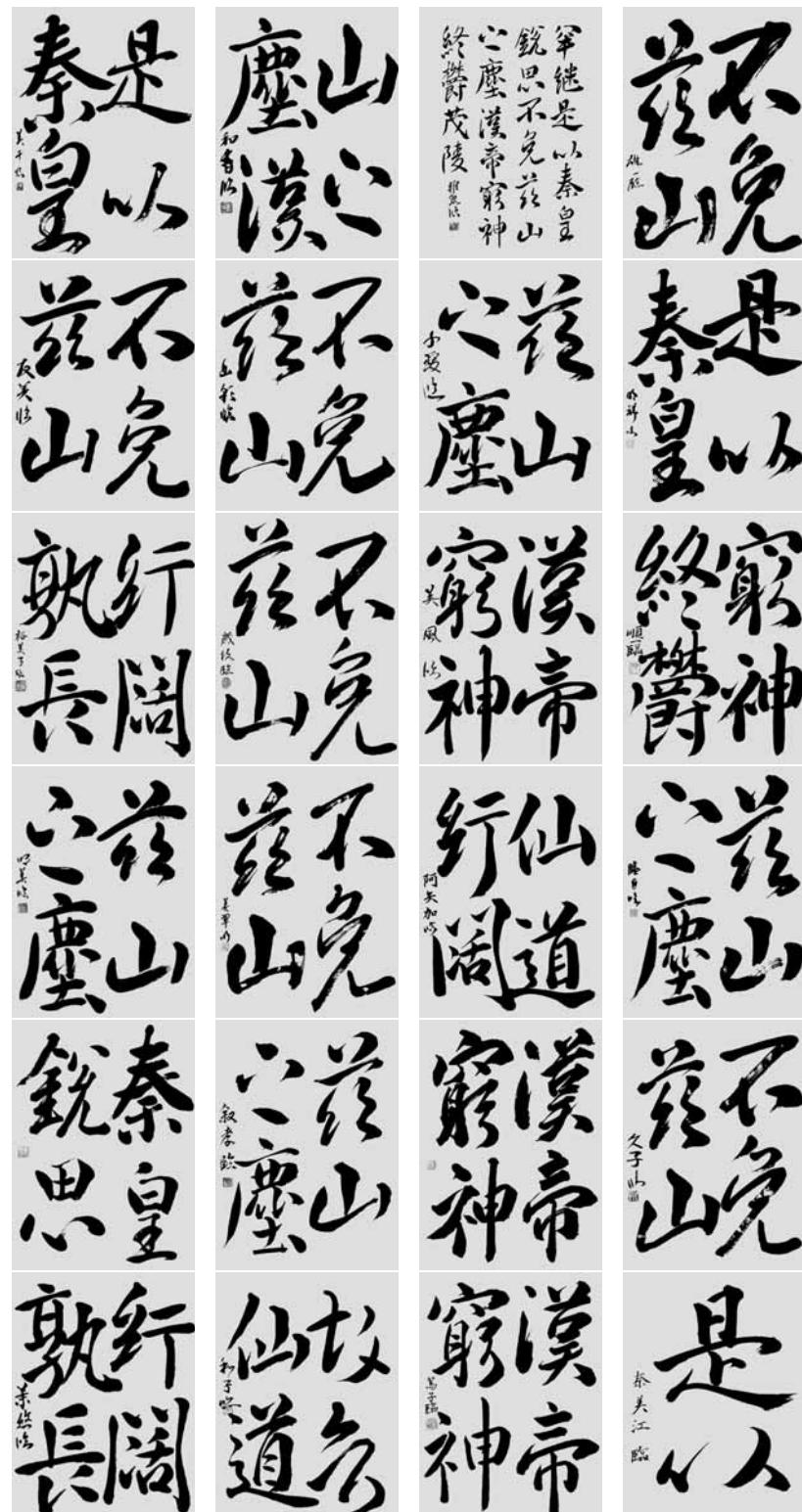
漢字研究部  
(温泉銘)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



名取美紹



茉美明 裕友美  
美  
悠艸美子 美千

和叙美歳幽和  
子孝翠枝彩香

篤陽阿ひ千雅  
矢か  
子子加る瓊泉

奈久睦順明雄  
江子月一样一

漢字研究部 特選 名取美紹  
深く落ち着いた線質の中に筋の通った強さ  
を感じさせます。また、肥瘦緩急のある用  
筆は実に見事です。結体も良く安定感を感じ  
させると共に、余白が生きた品格のある作品  
です。用筆も良く練度の高さを感じます。

◎漢字研究部総評

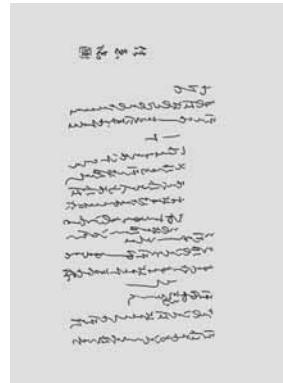
温泉銘は、力強い筆勢と伸びやかな運筆の  
変化に富んだ行書です。また、結体の上でも

独自の書風で表現していますが、バランスを  
崩すことなく見事にまとめ上げています。こ  
の特徴を良く理解し書かれた力作が多数寄せ  
られました。ただし、毎回感じることですが、  
誤字の作品も少なくありませんでした。特に  
「可」「帝」「孰」の運筆がまちがっている方  
が散見されました。字典にて調べて書く習慣  
を身につけましょう。

か な 研 究 部  
(一条摂政集)

選評 佐 藤 希 雲

今月のホープ作品



苗代佳惠

## ◎かな研究部総評

強くしなやかな線で広がりを感じさせる作品となっています。一行目以外は行のゆれや傾きも上手に表現できています。丁寧な学書に好感が持てます。

## かな研究部成績表

桜玉白千墨書土正竹。明蘭正八た蘇春硯春竹黎蒼こ黎大蒼千一大英東白梓正新樹書澄青白澄わ蕙正A渡白こた土わ紅澄  
音霊縁泉氣華百。満圓華雪か我江水汀美明限ば胆雪限葉故雪略峰向圓汀華崇圓泉妻修珠群春か妻華I刃鑿ばか氣か泉素

## ●篆刻

【十月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

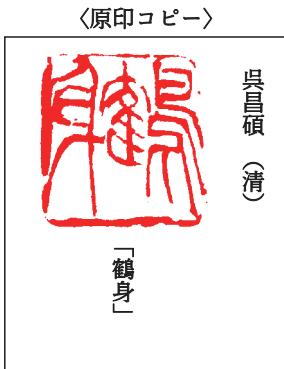
①摹刻

(ア)課題による語句  
(イ)原印自由  
(出典の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由

- 印面の大きさは3.2cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

### 9月号 摹刻課題



#### ◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の転写を明記、並びに落款(氏名)を入れる。

(摹刻)	
小北 中日	大雲 秀 硯水
林成田 成田	小沢 華仙 久保村 南城
淳一能喜 一能喜	天峰 華仙
生大 吉原	大雲 高橋 橋本
(選外なし)	香遊 片岡 清進
佳作 (50音)	
唯紳 佐藤	香琴 須賀澤 申慶
唯一龍仙 希雲	芳琴 一起 申喜
京橋 辻川	遊雲 研治 昌子
特選	中川 藤村 中野寺 幸喜
(創作)	
唯紳 佐藤	大雲 高橋 橋本
唯一龍仙 希雲	秀作 (50音)
京橋 辻川	辻川 隆子
特選	隆子
佳作 (50音)	
声富見 彦羅	遊雲 秀恵 荒川 佐々木 宮内
(選外なし)	野木 成木
佳作 (50音)	
遊雲 秀恵 阿部 文庵	宗苑 生大 茂木 義則 覚山 華所
空華 雅悠	四枝 坂本 篠田 絢水
青蘭 紫蘭	慈空 金谷 皓洋 覚山 華所
佳作 (50音)	
遊雲 秀恵 阿部 文庵	辻元 洋一
空華 雅悠	(大雲)

723号篆刻優秀作品

選評 後藤 大峰

摹刻

<特選>



「子良」

創作



「惠和」

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は  
東京都千代田区  
東神田一一六一七  
FAX(03)3861-1954  
101-0031  
〒101-0031  
東京都千代田区東神田一一六一七  
東神田プラザビル三階  
株式会社 リンクス  
印 刷 小沢写真印刷株式会社  
発行所 公益財団法人 書道芸術院  
電話 (03)3861-1954  
FAX (03)3861-1957  
振替 00150-4115055  
<http://www.lins.co.jp/shohei/>

コロナ禍の中、当分の間十六時まで時間の変更しております。  
十六時に時間の変更しております。

※お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日(金曜日九時~十七時の間)  
にお願いします。(土・日・祝日は休む)

1か月の購読部数が  
1部~9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は  
送料免除

令和三年八月二十五日印刷  
令和三年九月一日発行

定価 一部 七五〇円

編集兼  
发行人 辻元洋一(大雲)

データ処理  
印 刷 株式会社 リンクス

印 刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

電話 (03)3861-1954

FAX (03)3861-1957

振替 00150-4115055  
<http://www.lins.co.jp/shohei/>